

平成 21 年度公立高校入試問題の傾向 英語

近年の公立入試を出題パターン別に見ていくと、読解問題（約 50%）に次いで英作文が多く出題されています。また、その中でも近年は「条件英作文」が増加傾向にあります。そこで今回は、H21 年度の公立入試に出題された「条件英作文」を分析しました。英作文のご指導の参考にさせていただきますと幸いです。

H21 年度 「条件英作文」について

●出題率と指定文字数について

80%以上の県で「条件英作文」が出題されている。

指定文字数も若干増加傾向にあり、問題の半数近くが 3 文以上、あるいは 15 字以上の単語で答えるよう指定している。また、20 字以上の単語で答えるよう指定している問題も 30%以上ある。

●出題テーマと答え方

日常生活に関するテーマが最も多く出題されており、次いで、学校生活、福祉・ボランティア活動に関するテーマが続く。与えられたテーマについて自分の意見を書く問題が圧倒的に多く（約 70%）、さらに、意見の根拠となる理由を書くよう求められることが多い。

●その他

イラストを見て、イラストの内容の流れに合う英文を書く問題や、資料からわかることと絡めて英文を書く問題もいくつかの県で出題されている。

英作文を書けるようにするためには、日ごろから英作文問題に取り組み、文章構成力を身につけておくことが重要である。好学出版の英語教材では、文章構成力が身につく問題配列や問題選定に配慮するとともに、今後は、英作文問題に力を入れた教材作りを行っていきたいと考えている。